

# 風車学習会

## ～道北地方の風力発電を考えよう～

と き：2019年2月24日(日) 13:00-16:00

ところ：サロベツ湿原センター

### 挨拶

13:00-13:05

富樫とも子 道北の自然と再生エネルギーを考える会 代表

### 講演

13:05-13:35

- ・長谷部真（サロベツ・エコ・ネットワーク）  
風力発電計画と景観や生物への影響

13:35-14:05

- ・佐々木邦夫（風力発電の真実を知る会）  
風力発電による騒音と健康被害

14:05-14:35

- ・鷺見悟（幌延町議会議員）  
幌延町の風力発電と計画

14:35-15:05

- ・石郷岡卓哉（北海道海鳥センター）  
羽幌町周辺における風力発電と普及啓発の取り組み

### 休憩

15:05-15:20

- ・質問等用紙を回収

### 意見交換会

15:20-

進行：富樫とも子（道北の自然と再生エネルギーを考える会代表）

題目：道北地方の風力発電を考える

## 講演要旨

風力発電計画と景観や鳥類への影響

長谷部真

(NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク)

稚内地方周辺には100基以上の既存の大型風車（風力発電）があり、新たに1000基以上の建設が計画されています。このうち、天北（天北エネルギー）はすでに稼働を開始し、道北7事業・浜里（道北エネルギー）、上勇知（エコパワー）では環境影響評価で4つの段階のうち3段階（準備書）まで手続きが進んでいます。このほか2段階（方法書）または1段階（配慮書）まで進んでいる計画が多くあります。宗谷岬（ユーラスエネルギー）、サラキトマナイ（電源開発）、オトンルイ（JFE）では既存の風車を建て直す配慮書が最近提出されました。

当地域にはサロベツの国立公園を始め、宗谷岬、稚内大沼、大規模草地（豊富町）など利尻山が織りなす広大な景観が広がっており、多くの来訪者を魅了してきました。この地域に風車が建設されると丘の稜線から飛び出る風車群により、この地方の魅力となる原風景が著しく損なわれることが懸念されます。特に、利尻山を望む海岸沿い（勇知・浜里・オトンルイ）では利尻山の前に風車が立ちだかると風景があちこちに出現することになります。環境影響評価ではこのような広大な景観に対する価値感は主観的として、考慮されていません。風車による景観への影響は「景観対策ガイドライン（案）」（1981 UHV送電特別委員会環境部会立地分科会）に基づいて、風車を鉄塔とみなし、高さがどの程度（角度）見えるかによって評価されており、1-2度ではほとんど気にならないとされています。しかし、実際に風車には360度回転する羽根があり、多くの場合複数が並んで建っています。それらが一体のものに見えますので、複数の風車の累積的な水平角として評価する必要があります。また、サロベツのように何も無い風景の場所では、小さく見えても目立つので、風景の中にある異物として風車の存在そのもの気になりますが、1度以下の場合評価の対象になりません。加えて、景観の評価は代表的な眺望点からのみ評価されます。幌延湿原センターの木道、稚咲内海岸の道路（道道106号）、サロベツ湿原センター前の道路（道道444号）、豊富大規模草地の道路、宗谷丘陵フットパスなどは移動しながら連続的な風景を楽しむ場所ですが、そのことが考慮されていません。以上の点から、現在の評価方法ではこの地域の景観の価値が適切に評価されていないと考えます。当地域には雄大な景観が広がっていますが、当地域の地方自治体にはそれらを保全する制度がありませんので、今後は景観法に基づいた景観行政団体となり、景観保全計画を立て、重要な景観を指定して保全することが必要です。

稚内地方周辺は日本とロシアを行き来する渡り鳥にとっての国内有数の中継地です。なかでも、宗谷岬は春と秋に日本で最大のオジロワシ・オオワシの渡りが見られる場所です。また、道北7事業の増幌・樺岡、天北周辺にはオジロワシ・オオワシの大規模な渡りの中継地があります。大沼・兜沼・ペンケ沼・振老沼（天塩川の三日月湖）はガン・ハクチョウ類の渡りの中継地で、北は宗谷岬、南は天塩の海岸沿いや天塩川上流方向を結ぶ線を春と秋に多くのガン・ハクチョウ類が通過します。この主要な渡り経路上には既存のサラキトマナイの風車と道北7事業の勇知・川西・芦川や上勇知の計画があります。小鳥類も秋には主に海岸沿い（勇知・浜里・オトンルイ）を多く渡ることが知られています。また、当地域にはオジロワシ・チュウヒ・タンチョウや日本ではサロベツでしか繁殖しないシマアオジやミコアイサがいます。風車建設により、風車への衝突（特にオジロワシ）、渡り経路の変更、繁殖への影響、繁殖地の放棄などの影響が懸念されます。

## 風力発電による騒音と健康被害

佐々木邦夫

(風力発電の真実を知る会 代表)

### 1. はじめに

国家事業とも言える再生可能エネルギーの普及、及びFIT 価格制度導入により、多くの企業が再生可能エネルギーの分野に参入している中、風力発電において北海道では 300 基を超える大型風力発電が稼働しているほか、環境影響評価手続き中の 900 基を超える大型風力発電が計画されています。一方、小型風力発電においては、約 1,400 件が事業計画認定を受けており、住宅に近い場所の建設が懸念されています。環境省では、低周波音による苦情が出ていることは認識していますが、健康被害について指針の中では明記されていません。しかし日本各地において、めまい・頭痛・不眠などの症状が表面化しており、どの地域においても同様な健康被害が出てきています。

### 2. 方法

静岡県東伊豆町の CEF 伊豆熱川ウインドファームでは、2007 年に建設された大型風力発電の試験運転直後から、不眠などの影響が出始め、2008 年には自治会によるアンケート調査・騒音測定が行われました。

### 3. 結果

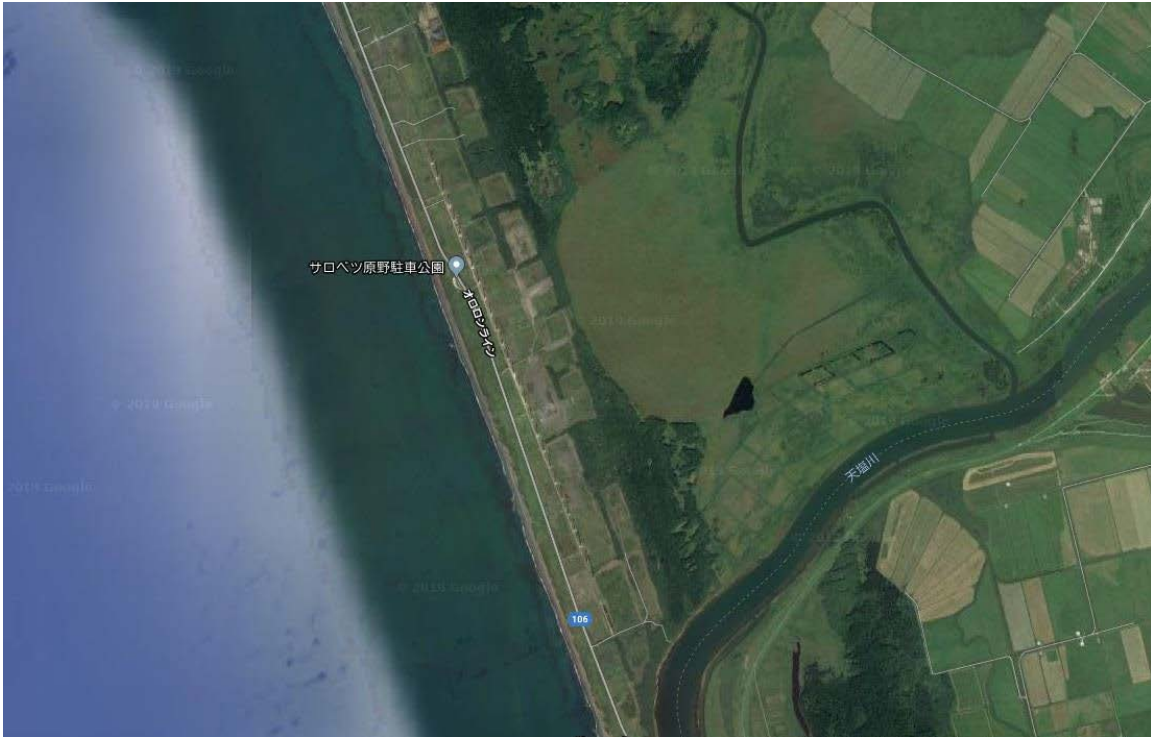
2009 年公害等調査委員会へ原因裁定申請し、夜間の運転休止と回転数の減少が決定されました。

### 4. まとめ

静岡県東伊豆町の CEF 伊豆熱川ウインドファームの健康被害については、一つの例にすぎませんが、日本各地で同様な状況が起きています。北海道大学工学院松井研究室では、北海道石狩市周辺における、大型風力発電 4 事業（計画・建設中含む）46 基におけるシミュレーションを行った所、低周波音による何らかの影響が周囲 15 km（札幌市・小樽市・石狩市）に渡り 40 万人に影響が出る可能性が予想されています。現状では完成（運転）後の状況により低周波音による健康被害が懸念されます。アンケート調査や騒音測定を行うことと、住民相互の連携がとても重要になると考えます。

幌延町の風力発電と計画  
幌延町議会 鷺見悟

オトンルイ風力発電所



オトンルイ風力発電所



## 羽幌町周辺における風力発電と普及啓発の取り組み 石郷岡卓哉

### ■羽幌町周辺の風力発電の状況

羽幌町周辺では、苫前町に民間の大規模風力発電施設（39基）と町営の発電施設（3基）が稼働している。羽幌町は汐見地区に2基の風車があったが、2013年12月に落雷によるブレード落下事故が起これ、撤去された。苫前町営の3基については、オジロワシのバードストライクが度々発生している。

2017年から18年にかけては、海岸沿いの国道脇を中心に、様々な業者により小型風車が次々と建設された。国による固定価格買取制度で、発電量20kWh以下の小型風力発電の買取価格が2017年度まで特に高く設定されていたため、投資目的による建設が相次いだと思われる。短期間に次々と乱立したため住民から不安の声が出始めた。そのため各町村では小型風車建設に関するガイドラインを制定して対応しているが、法的拘束力が無いためほとんど守られていない。

羽幌町周辺での小型風車によるバードストライクについては、これまでトビ1羽とオジロワシ1羽の事故が確認されているが、偶然に発見されたものであり、実態はほとんど分かっていない。ブレードの高さなどから特に小鳥類の被害が多いと思われるが、把握は難しい。

### ■北海道海鳥センターにおける普及啓発の取り組み

北海道海鳥センターでは、バードストライクなど現状の風力発電の問題点について理解を広めるため、様々な取り組みを行なっている。その事例について紹介する。

#### ・展示

風力発電によるバードストライクや海洋のプラスチック汚染など、環境問題についての展示をしている。多くの人に見てもらうための工夫もしている。

#### ・SNSの活用

Facebookページを活用して問題提起をしている。バードストライクに関する投稿は閲覧者やコメントが通常より多い。

#### ・新聞・雑誌等への寄稿、取材対応

北海道新聞朝刊「朝の食卓」、北海道新聞野生生物基金「モーリー」などへの寄稿や、新聞の特集記事への取材協力などにより、多くの人に問題点を伝えている。

#### ・学校教育との連携

羽幌高校3年生の総合学習で風力発電のメリットとデメリットについて学ぶ授業に協力し、主にバードストライクなどデメリットについての講義を担当している。